

パラグアイの子どもの生活・夢・生き方

氏名： 岩 田 典 男

学校名： 三豊市立比地小学校

担当教科： 社会・道徳

実践教科： 総合的な学習

時間数： 5時間

対象学年： 小学3年生

人数： 26人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標）：

- パラグアイの子どもたちの生活や夢・目標を知り、自分たちの生活や夢、生き方について考える。
- いろいろな状況の中で、目標を持ち自分の夢に向かって、学習したり生活したりすることの大切さを学ぶ。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	子どもたちの生活の様子や学校生活について興味をもつ。
	(イ) 思考・判断・表現	学校生活の同じところやちがいを見つけたり考えたりする。
	(ウ) 技能	資料や映像から子どもたちの夢や目標、生き方に気付く。
	(エ) 知識・理解	夢や目標をもって学校生活を送ることの大切さを知る。
【3】 単元設定の理由	<p>今回、JICA 主催の教師海外研修に参加し、パラグアイの諸学校の視察、交流授業を通して、子どもたちから様々なことを学ぶことができた。</p> <p>学校での学びが、即、社会での作業に結びついている職業訓練校の生徒からは、ビジネスで成功したい、利益を上げ幸せな生活を築きたいという思いが伝わってきた。</p> <p>日系社会にある日本語学校の子どもたちからは、日系1世の思いを大切に引き継ぎながら、日本語や日本文化を大切に、現地社会での自己実現を模索する姿に出会った。</p> <p>現地の学校に通う生徒からは、様々な生活環境の中、留年制度という厳しい学校制度のもと、夢を実現させようと、教師の話を真剣に聞きノートをていねいに書く姿があった。</p> <p>日本の文化や教育制度を取り入れた独自のカリキュラムを編成し、保育所から大学までの一貫教育を行っている学校では、日本語を繰り返し学ぶ授業を見せてもらった。</p> <p>様々な状況の中で、自分の生来の夢を見据え、懸命に努力する子どもたちの姿は、本校の子どもにとって、夢や目標を持ち学校生活を送ることの大切に気付かせるきっかけになると考える。</p>	
児童/生徒観	<p>本学級の児童（男子12名、女子14名、合計26名）は、生活科において、家族の一員としての自分のできる仕事を実行したり、地域に出かけ地域の人々と出会う中で、地域の一員としての自覚も芽生えたりしている。親の仕事や幼稚園、学校などの教職員の仕事について知っている程度で、具体的に、自分の将来の職業について考えていないと思われる。学習についても、親や教師に言われるまま実施しているものがほとんどである。</p>	

教材観 指導観	<p>これらの現状を踏まえ、指導にあたっては、以下のことに留意する。</p> <p>① 具体的な資料（写真や映像）を用い、パラグアイの子どもたちの姿を伝える。</p> <p>② パラグアイYES・NOクイズや班活動を取り入れ、参画型の授業にする。</p> <p>③ 学校制度や学校の様子から日本の学校と同じところ、違うところを考えさせる。</p> <p>④ 半日授業に着目させ、後の半日をどう過ごしているか、考えさせることにより、本単元の課題「学ぶことの大切さ」にせまる。</p> <p>⑤ カテウラ地区（ゴミ収集などを生活の糧にしている貧しい地域）の音楽団の映像より、苦しい生活環境の中、世界中で活躍している子どもたちがいることを知り、夢をもって学ぶことの大切さを理解させる。</p>
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【4】展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>1 パラグアイの位置を知る。 ○えっ、パラグアイに先生が ○パラグアイってどこ？</p> <p>2 質問事項を考える。</p>	<p>1 世界地図でパラグアイの位置を確かめる。 ・オリンピックが開かれたブラジルの近く ・まわりを国に囲まれている</p> <p>2 パラグアイの子どもたちへの質問事項を考える。 ・学校生活について ・生活について ・日本を知っている？ ・どんなイメージ？</p>	<p>世界地図</p> <p>パラグアイの写真</p>
2	<p>1 パラグアイ YES・NO クイズを通して、パラグアイについて知る。 ・お茶が有名 ・緑が多いな ・1階建ての家、なぜ？ ・給食はあるの ・えっ、おやつを食べていい ・勉強熱心？</p>	<p>1 YES・NO クイズによりパラグアイのことを知る。</p> <p>2 感想を書く。 ・パラグアイの子どもも勉強している ・日本語を勉強している ・おかしを食べている、いいな ・給食もあるのか、自由に食べている ・半日授業、勉強しなくていいな</p>	<p>YES・NO クイズ</p> <p>写真（学校の様子）</p>
3 本時	<p>1 パラグアイの子どもの一日の生活から自分の夢をもち、音楽や語学の勉強をしていることを知る。</p> <p>2 なぜ、音楽や日本語を学ぶのか考える。</p> <p>カテウラ地区の音楽団</p>	<p>1 パラグアイの子どもの一日の生活から考える。 ・半日授業、いいな ・後の半日、何しているの</p> <p>2 後の半日、何しているのか考える。 ・自分なら・・・</p> <p>3 アンケート結果より調べる ・日本語のスピーチをする中学生 ・楽器の演奏</p>	<p>一日の生活（図）</p> <p>映像・写真</p>
4	<p>1 学ぶことの大切さを考え、自分の生活をふり返る。 自分の夢は？ 将来の自分・・・</p> <p>2 まとめをする。</p>	<p>1 もし、学ぶことができなかつたらどうか考える。 ・文字が読めない ・文字が書けない ・生活が不便 ・なりたい職業につけない</p> <p>・自分の夢が実現できない</p> <p>2 自分の夢について考え、現在の生活を</p>	

		振り替える。	
【5】 本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	○子どもたちの学校生活の写真を見る ・休み時間 ・授業 ・給食 ・清掃	○ パラグアイの子どもたちの学校生活の写真から、日本と同じところ、違いを見つけさせる。	写真（学校生活）
展開 (5分)	1 1日の生活のグラフより、日本とのちがいをを見つける。 ・学校が半日授業 ・午後は何をしているのか パラグアイの子どもたちは	○ 1日の生活の仕方を表したグラフより、日本の子どもの生活とのちがいを見つけ、考えさせる。 授業のない午後は何をしているの	一日の生活 だろう？
(10分)	2 パラグアイの子どもたちは午後何をしているのか、予想する。	○ 自分だったら、午後、授業がなかったら何をするか考える。 ・ゲーム ・携帯 ・昼寝	アンケート結果
(10分)	3 アンケート結果「午後の行動」から考える。 ・家の手伝い（農業） ・サッカーの練習 ・音楽学校に通う ・語学学校に通う	○ パラグアイの子どもの午後の行動を見ての感想を出させる。 ○ アンケート結果「将来の夢」を提示し、午後の行動が、将来の夢につながっていることに気付かせる。	「午後の行動」
(10分)	4 経済的に苦しいカテウラ地区の子ども（音楽団）の映像から考える。	○ 経済的に苦しい家庭の子どもについて考えさせる。 ○ 働きながら、学校へ行く子どもを紹介し、夢をもち学んでいることを伝える。 ○ 家庭の貴重な労働力であることを知らせる。	映像「カテウラ地区の音楽団」
まとめ (5分)	5 まとめをする。	○ パラグアイの子どもは将来の夢をもち、その夢に向かって、半日の時間を使っている。	
	6 感想を書く。	○ 自分の将来の夢について考え 本時のまとめをする。	

--	--	--	--

【授業実践の様子】

- 1 麦わら帽子をかぶったパラグアイ人「NORI さん」登場 (2時間目)
 「ブエノスタルデス (こんにちは) 」
 「ミ ノンブレ エス NORI (名前はのりです) 」
 「今日はパラグアイの子どもたちの生活について、みなさんに紹介します」

2 YES・NOクイズ

- 第1問 パラグアイでもお茶を飲む習慣がある
 第2問 そのお茶の飲み方は 一気に飲む ストローで飲む
 第3問 パラグアイの家は1階建てが多いその理由はお金がない
 第4問 パラグアイの学校は、雨がふったら休みである
 第5問 パラグアイの学校には給食がない
 第6問 パラグアイの学校は、おかしを食べてもよい
 第7問 パラグアイの子どもは勉強熱心である
 第8問 80年前にパラグアイにわたった日本人は豊かな生活をしている
 第9問 その中には、香川県出身の人もある
 第10問 岩田は、日本に帰りたくなかった



【YES・NOクイズで盛り上がる】

パラグアイの生活や学校制度、パラグアイにわたった日系人についての問題に、全問正解しようと必

死で考え答えた。正解を言う度に盛り上がり收拾がつかないほどに。

- 3 パラグアイで出会った子ども A さん、B さんの一日の生活のグラフを黒板に貼る。
 「学校の時間短い」「パラグアイの学校は昼までで終わっている」全員が気付いた。
 パラグアイの学校は午前と午後のどちらかを選んで行く。毎日が半日授業。
 「ええなー。あとの半日遊べる」
 「そのかくしているところ何?」「学校が終わった後、何をしているのか?」
 グラフでは、午後の時間を使っているところを白い紙でかくしていた。

学習問題

「パラグアイの子どもたちは、学校のあとの半日何をしているのか?」

- 4 「みんなだったら、どうする?」ワークシートに書く。
 ・ゲーム ・テレビ ・ビデオ ・友だちと遊ぶ ・児童館 ・テニス ・DVD ・お買い物
 ・家の手伝い ・妹の世話 ・野球をする ・ダンスの練習 ・草抜き ・カラオケ ・習字

- 5 パラグアイの子どもは何をしているのか (アンケート結果より)

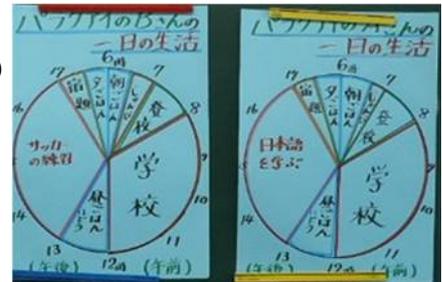
A さん 日本語を学ぶ

「エー、何で日本語を学ぶの?」

「パラグアイの言葉を知っていたら、こまらないのに」

B さん サッカーの練習

「そんなに、長いことサッカーするの?」



【パラグアイの子どもの一日】

- 6 パラグアイの子どもは、学校から帰って何をしているか (アンケート結果)

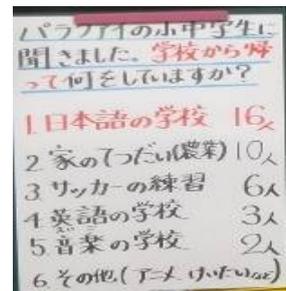
- 1位 日本語の学校に通う・・・16人 2位 家の手伝い(農業)・・・10人
 3位 サッカーの練習・・・6人 4位 英語の学校に通う・・・3人
 5位 音楽の学校・・・2人 6位 その他(アニメ 携帯)

「学校が多い」「パラグアイにも携帯ある～」

「何で日本語を勉強するのだろう」

「なぜ、またちがう学校に通うのだろうか?」と問いかけた。

「夢をかなえるため」



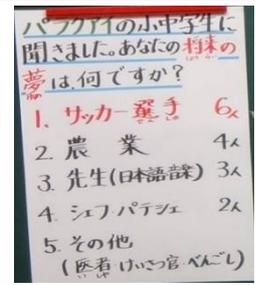
【学校から帰って】

- 7 「パラグアイの子どもの、将来の夢は何ですか?」 (アンケート結果)

- 1位 サッカー選手・・・6人 2位 農業・・・4人
 3位 先生(日本語・音楽)・3人 4位 シェフ、パティシエ・・・2人
 5位 その他(けいさつ官、医者、べんごし)

「日本語の先生になりたいのか」

「サッカーの練習をしている人はサッカー選手になりたいのか」
 「家の手伝いをしている人は、家をつごうとしている」
 午後からの行動としょうらいの夢がつながっている。
 「学校の後の半日は、しょうらいの夢のためにつかっている」 まとめを書いた。



【将来の夢】
 (3時間目)

「学校に行くためには、何がいる？」
 「お金」
 「みんなが豊かというわけでない。自分の夢のためにもう1つ学校に行かせられる家庭は一部である。」

学習課題

「豊かではない家庭の子どもは、夢をあきらめているのか？」

1 ビデオを流した。

カテウラ地区 首都アスンシオンのゴミが集まってくる場所。この地区の人は、そのゴミの中からお金になるもの集め生活をしている。子どもも労働力である。

カテウラ地区の音楽団

「君が代」、30人あまりの人たちがそれぞれの楽器を持って演奏。
 「パラグアイ国歌」

「えっ、楽器が変だ。」「楽器がゴミで出来ている。」

この地区にすてられるゴミで楽器の一部が出来ていた。有名なアメリカの歌手グループが、この楽団のことを紹介し、有名になり、世界全国を、演奏のため飛び回っている。日本にも来たことがある。

日本の高校の英語の教科書(東京書籍)にも紹介されている。決して豊かとは言えないカテウラ地区の子どもたちも音楽を通して、自分の夢を実現している。

2 ホームステイした娘さんの紹介

仕事をしながら大学に行くお金をためている。

3 授業のまとめをする。

パラグアイの子どもたちは、どんな状況の中でも自分の夢に向かって努力している

4 自分の夢について考える。

パラグアイの子どもたちの姿を、みなさんに伝えたかった。そして、みなさん自身も自分の将来の夢について考えるきっかけにして欲しかった。

「みなさんは夢をもっていますか」26人中16人の人が手を挙げた。

「そのために準備をしていますか」16人中13人の人が手を挙げた。

5 パラグアイの子どもたちから学んだことを書く。

【6】本時の振り返り

- ・ YES・NOクイズは、收拾がつかないほど盛り上がった。
- ・ 「なぜ、日本語学ぶのか」疑問をもった。
- ・ カテウラ地区の子どもが、ゴミで楽器までつくって夢を実現する姿が印象に残った児童が多かった。
- ・ 自分の夢について考えている子どもが多いことに驚いた。考えてない子どもも、パラグアイの子どもの姿より、考えるきっかけになった。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

～感想より～

- ・ 午前中、学校に行って午後からしょうらいのためにがんばっているのがびっくりした。すごい国だなと思った。私はようち園の先生になりたい。小さい子と遊ぶのが好きだし、とくいなピアノもいかせるから。
- ・ パラグアイは半日授業だけど、日本は授業が多いなと思いました。私の夢はバスケットボールのコーチとエステやさんになりたいです。
- ・ 学校が半日しかないんだなと思いました。私も学校が半日だったら、しょうらいの夢のためになることや人がよろこんだりすることがしたいと思いました。たとえゴミでつくられたとしても自分の夢をがんばってやっていますすごいと思いました。
- ・ パラグアイの人は、日本語や英語をいっぱい勉強できてすごいなと思いました。私の夢はまだ決まっていません。
- ・ しょうらいの夢を考えて、もうじゅんびしているのがすごい。ぼくは、シェフになりたい。がんばってつくってみんなに食べさせたい。
- ・ 柔道を習ってしょうらいはオリンピックで金メダルを取りたい。
- ・ 子どもたちは、ゴミで楽器をつくっているのがすごいと思いました。私もつくってみたいです。私はペットショップのためにがんばりたいです。
- ・ ゴミで楽器をつくっているのがすごいと思いました。ぼくの夢は、ドラフト会議でプロ野球選手になること、だめだったらユーチューバーになりたいです。
- ・ 日本とぜんぜん違うなと思いました。バイオリンや楽器をゴミでつくっているのにびっくりしました。私の夢は、骨がおれたりけがをしたりした人の手当をする病院で働きたいです。「だいじょうぶ」と言って手当をしてあげたいです。
- ・ ゴミで楽器をつくってすごいと思いました。夢はバスケットボール選手です。バスケの練習をいっしょうけんめいにやっています。
- ・ ゴミでつくったバイオリンにびっくりしました。ゴミのにおいになれているの？と思いました。私

の夢は、人に役立つことをしたいです。これからいろいろなことを学ぶので、いろいろなことに挑戦したいです。

- ・ しょうらいの夢のために、すごくがんばっている。プロテニス選手になるために、週3回テニスに通っている。試合にも出ている。
- ・ 自分で働いてお金をつくるなんてすごいなと思いました。私の夢は、ペットショップの店員です。そのために、ペットの勉強やたくさん動物について知りたいです。
- ・ 大人になったら、プロ野球選手になりたい。ソフトの練習を始めたい。
- ・ しょうらいはユーチューバーになりたい。けいたい動画をとって勉強している。
- ・ 学校が終わって手伝いをしていると思ったけど、しょうらいの夢のために学校に行っていたのですごくいいと思いました。私の夢は、ケーキ屋さんになりたい。誕生日の日に、動物をフルーツでかたちをつくりかざりつけをする。
- ・ パラグアイの子どもは、たくさん勉強しているのですごくいい。しょうらいの夢はパン屋さん。そのために、お家の人がつくっているのを見ている。生地を丸めたこともある。そうじもしたことがある。
- ・ 動物や虫にかんけいがある仕事につきたい。
- ・ しょうらいのことを考えて習いごとをしているのがすごくいいと思った。水泳選手になるためにスイミングをやっている。
- ・ あまった時間などで、自分のしょうらいのために努力するのがすごくいいと思いました。私は、医者になりたいので「人体のしくみと病気が分かる辞書」を読んで、ノートにメモしています。
- ・ 字がきれいになりたいから、こうひつを習っています。大人になったら字がきれいに書ける人になりたいです。
- ・ ゴミで楽器をつくるなんてすごかったです。夢はお金をためて車を買って乗りたいです。
- ・ 私の夢はお医者さんです。「おなかがいい」と言う人を助けたいです。
- ・ ゴミを使って楽器をつくらせて音楽団をつくるのがすごくいいと思いました。ぼくの夢は、柔道の選手になることです。土日や休みの日に練習をしています。
- ・ ほとんどの人が、しょうらいを考えているのですごくいいと思いました。
- ・ 夢は、一級建築士。紙に家の骨組みなどを書いている。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

- ・ 世界の子どもが「日本語をなぜ学ぶのか」という課題が印象に残った児童が多い。日本を見直すきっかけになったと思う。
- ・ パラグアイの子どもたちの姿から、自分の夢や将来の生き方を考えるきっかけになった。
- ・ 今、自分のやっていること（ソフトボール、水泳、テニス）や興味関心のあることが、将来の夢につながることを実感したり、自分に向いていることは何か、何をやって生きていくのか考えたりするきっかけになった。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

- ・ パラグアイの位置さえも知らなかった。

- ・ 携帯電話など普及していない。
- ・ 貧しい生活をしているのだろう。

(授業後)

- ・ 将来の夢のため、早くから準備している。
- ・ 日本語を熱心に勉強し、将来に生かそうとしている。
- ・ 授業中も熱心に教師の話を聞き、ノートもていねいに書いている。
- ・ サッカーや運動が盛んで、小さいころからがんばっている。
- ・ 貧しくても、夢をあきらめないでがんばっている。

【8】自己評価

1. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいことがたくさんあり、それを絞り込むのが難しい。今回は、あえて日系人のことは授業の中に入れなかった。 ・ 映像や写真をどこでどう使うのかの吟味が必要である。 ・ 収集した資料を子どもの実態に合わせ、子どもに分かるように加工することが大切である。
2. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ お客さんではなく、自分のことととらえさせるために、活動（班活動）を取り入れる必要がある。 「もし、教育が受けられなかったら・・・」「もし学校がなかったら・・・」
3. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の夢を考えるきっかけになった。 ・ 今やっていることや生活を振り替えるきっかけになった。
4. 備考（授業者による自由記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の子どもが「日本語をなぜ学ぶのか」という疑問をもった児童が多い。この課題を持ち続け追究していくことが、国際理解教育つながるような気がする。世界の中での日本のことを知ることもできるし、日本を見直すことも出来る。日本人としての自覚やこれから自分が何をしなければならないかも考えられる。 ・ カテウラ地区の子どもたちの姿は、次の日本の子どもたちがめざす姿である。ゴミ問題だけでなく、エネルギー問題や食糧問題などこれからたくさんの課題を抱えることになる。その中で、どう解決しながら自分の夢を実現していくか、これからの子どもたちが（日本）が抱える課題があまりに大き過ぎるような気がしてならない。 ・ 「現地で学ぶ」の大切さを痛感する。授業者自らの感動や気持ちの揺れがないと子どもに、感動もって伝わらないと思う。パラグアイでの感動もさることなが

	<p>ら、四国四県から参加した先生方からも刺激を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ J I C A の研修制度も評価したい。研修が終わったから終わりではなく、事後研修により、感動したことは何か、伝えたいことは何か、伝える方法は？ <p>講師を招き、全員で考える機会が、授業を絞り込むことにつながった。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

添付資料：

- ・ 現地でのアンケート
- ・ 写真（ホームステイ・日本語学校の生徒・デルエルチャコ学校）
- ・ ビデオ（カテウラ地区・音楽団）
- ・ DVD（横井先生作）
- ・ YES・NOクイズ

参考資料：

- ・ 特になし